

協議会ニュース

11号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

60.2

{自然を知るために}

- ・サクラの地衣 (木村 激) 1

{考えてみよう}

- ・自然観察指導員として (小向智晶) 3

{支部だより}

- ・自然観察会から (知多支部) 5

- ◎なかまたち ----3 [カマキリのなかも] 7

{会員広場}

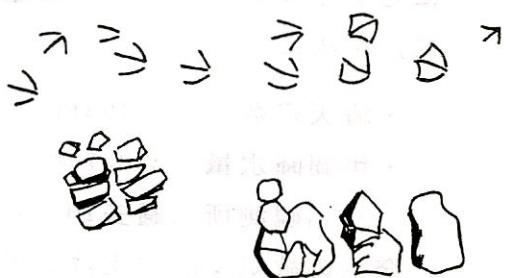
- ・緑の国勢調査に参加して (竹部公哉) 8

- ・「めんどうくさい」について (佐藤国彦) 9

- ◎刊行物案内 4

- ◎行事報告 10

- ◎行事案内 11



図：水野礼子

59.11.18 木曽川の河原で見た鳥の足跡
カモの仲間、カラス、セキレイ

岩の間をぬってカモは
何をしていたのでしょうか

~~~~~{自然を知るために}~~~~~

## サクラの地衣

木村 滋（新城市）

### ○ コケでないコケ

葉桜となった5月上旬のある日、桜渕公園へ遠足にきていた小学生数人に、サクラに発生しているウメノキゴケを見せて、「これなあに？」……。子供達は顔を見合させていたが、やがて返答。「コケづら」なる程コケに見えて不思議はない。付近のサクラの老樹にはヒメカモジゴケのついているのがあるから。私の回答。「これはウメノキゴケといって、コケではなく菌類と藻類というものが一諸になったキノコの仲間だよ。」と。「エーッうそ」と、子供達は驚きの声をあげたので、早速持参のマジックボードに絵を描いて説明すると、ようやく理解してくれました。これはサクラの地衣観察調査中の記録の一つです。

### ○ 地衣の生態

地衣には固着地衣、葉状地衣、樹上地衣があって、サクラに発生するものは葉状地衣で、桜渕公園のそれはほとんどがウメノキゴケです。地衣はその生育に長い年月を必要とし、数十年かかって成熟するものも珍らしくないです。

地衣類は花が咲かずに胞子でふえ、葉と茎の区別はなく菌糸で出来ていて、体内に藻類が共生している。根は偽根といい、水や養分はほとんど吸収できず、体を固着する役目をしているだけです。

地衣が生ずるためには、適度な日射と雨による水分の供給が必要とされますから、その発生の要因となる公園周辺の微気象と、観察した樹数に対するウメノキゴケの発生率（%……完全形成したものをランダムにて）を次に掲げます。

|        |         |       |       |
|--------|---------|-------|-------|
| ・晴天日数  | 193日    | ・温量指数 | 125.3 |
| ・年間降水量 | 2,267mm | ・乾湿指数 | 17.0  |

（八名観測所。過去10年間の観測記録の最高値）

発生の微気象的要素は、最適と思われます。観察した地点を、陽当りがよい…A、半日陰…B、河縁…Cとして分布を調べると、

| 環境 | 樹数 | 発生率% |
|----|----|------|
| A  | 98 | 80   |
| B  | 72 | 76   |
| C  | 91 | 88   |

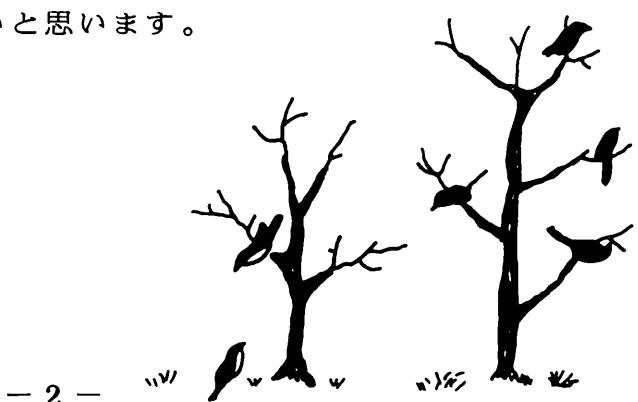
なお、発生した地衣の大きさを測定した結果、最大のもの約 140cm<sup>2</sup>、最小のもの 2.2cm<sup>2</sup>でした。この中、発生枝の人工切除62、菌糸に侵されて自然折損したもの74であった。何れも推定樹令30~50年であり、主幹が根元より折損したものはカイガラタケが群生して腐朽していた。(測定用具：手製アクリル方眼板)

### ○ 地衣の功罪

地衣類は、大気汚染とくに亜硫酸ガスによる汚染に対して、極めて鋭敏であることが知られています。市街地で工業地帯をかかえる所では、大気汚染によって地衣類が消滅し、汚染の指標性が大きくクローズアップされました。専門家の研究報告によれば、亜硫酸ガスが地衣類に及ぼす影響は 0.05PPMといわれています。

奥三河唯一の都市新城にも工場団地がありますが、市でもこれらの誘致工場と公害防止協定を結び、自然環境の保全に留意していることはうれしいと思います。この地衣の分布が大きいので大気のきれいな街といえるでしょう。

その反面、この地衣（ウメノキゴケ）があまりにも増えると、共生している菌糸がサクラに侵入して樹勢が衰え、樹皮がはがれ、はては木材腐朽菌（森の掃除屋と呼ぶ）であるサルノコシカケ科のキノコまで発生して、サクラを枯死させるのは困ったことだと思います。そのため、桜の名所桜渕公園の桜が減らぬように、若木を植えて更新をはかり、現状を維持できるようにしてほしいと思います。



~~~~~〔考えてみよう〕~~~~~

自然観察指導員として

小向智晶（豊田市）

私は自然観察指導員として、早4年を過がようとしている。指導員としての責務は果しているがどうか非常に疑問であるが、その数少ない指導にあたっても、いろいろとまどいを感じていたことも事実である。

では、そのとまどいとは何であったのかを以下に述べてみる。

その一つとして、観察指導に当たりあまりにも名前（動植物）にこだわりすぎてはいなかつたろうかということである。

名前というものは必要であることは否定できない。人間の欲望には、知識欲、快楽を求める欲、……といろいろな欲があり、知識欲はその中でも大きな存在を占めるからだ。

でも、名前そのもの（例えばワレモコウ）は、心の中では一つのイメージとして存在してはじめて生々としてくる。そのワレモコウも尾瀬に咲くワレモコウ、葦毛に咲くワレモコウといろいろあるが、それが全体の景色の中に溶け込み一体となってイメージ化されているのではないだろうか。我々は、父親の名前、母親の名前を知り過ぎるほどよく知っているが、心の中には母なるイメージ、父なるイメージを抱いて成長してきているのではないだろうか。

こう考えてみると、名前というものはその個体としてのイメージを想像させる伝達手段の一つではないのだろうかとさえ思えてくる。

また、知識欲を求めることが大切であるが、果してそれだけで満足することがあるのであろうか。もしかしたら、知識欲は、この広い宇宙の中で銀河系の彼方まで続いているのでは……。

この問題に直面して思ったことは、指導者、参加者が一緒になって、見たり、聞いたりして感じたことをお互いに楽しく語り合い考え合うことが大切ではなかろうか。そして、その中から我々と宇宙とは一体であることを学びとることではないか。

一緒にになって、日頃の感じたことなどをお互いに話し合うことは、家庭においても大切なことである。反抗期にある子供については特に大切

と思われ、子供の抑圧され、乱れた心から、生き方、考え方を親（両親）に求めている姿がわかってくるような気がする。このように、一緒に考えるということがいかに大切であるかを思い知らされることは多い。

名前については、一緒になって考えを述べ合った後で、最後につけ加えればよいのではないだろうか。

二つ目の疑問は、指導員として何の金にもならないことをなぜ一生懸命するのだろうかということである。

自然に対する危機感、使命感はさりとも、何か指導員として得になることがあるはずである。その得とは何であろうか。

やはり、人を指導するということが得になるのであろう。人を指導するためには、自分も勉強しなければならない。また、反対に参加者から学ぶところも多いはずである。

実際に指導にあたってみて、参加者が5プラスになっているなら、指導者としては5プラス以上の見返りがあるのでなかろうか。観察会で／人前に指導できるということは、その人格が一周り成長したことであると考えたい。

もし、その人が自分で何人も参加者を集めることが出来、よく指導できるならば、その人は人格の形成された、魅力ある人に違いないと思うのだが……。

〔刊行物案内〕

- ◎ 「探鳥ガイド西三河」 西三河野鳥の会編集・発行 (探鳥地案内)
A5版 P.110 1984. 3.31発行
- ◎ 「佐久島の化石」 (海岸の転石を調査して) 発行: 一色町
B5版 P.45 著者: 杉浦正巳、柴田 博 59.11.1 発行
- ◎ 「鳳来の自然」 (報告Ⅱ) 編集: 鳳来町自然研究委員会
B5版 P. 152 発行: 鳳来町教育委員会 (59年 3月)
(案内: 乳岩・鳳来湖、巣山・阿寺、黄柳野、仏坂、一色・塩瀬、
長篠)

~~~~~ 支部だより ~~~~~

## 自然観察会から

知多支部

「へエー、どんぐりが食べられるなんて知らんかった。」「どんぐりってにがいんじゃないの？」と、おそるおそる手を出す子どもたち。そして、何とも不安そうな顔つきが、ニコッと笑って、もう1個ほしいというまでにはそう時間はかからなかった。

これは、10月に東海市大池公園で行った、今年度2回目の観察会のことです。木の実、草の実に親しむ中から、自然に目を向けてもらおうと、どんぐりやカエデ、オナモミ、ジュズダマ等をくらべる中で、植物の実の拡散の方法を知らせたり、落ち葉の色や形を見つめるだけでなく、葉の位置と幹の位置から風の方向を考えさせたりしました。

なかでも、どんぐりぶえを、どんぐりを割らないように中身をほじって完成させ、さて音がでた時の自慢げな顔。子どもたちは実を集めたりするのは得意でも、それを使って何か作って遊ぶことは今ひとつ苦手である様子から、クギとコンクリート道を使っての工作は、楽しかったものと思います。

この日を迎えるまでには、コースの下調べはもちろんのこと、ここではどんなポイントが見つけられるか、七ツ道具を背中に、歩き回ります。それぞれ得意な分野を出し合って、ゼミナールが始まるかと思えば、とんでもない方向からの疑問がわきあがって話が難行したり、下調べとはいっても、指導者間の疑問や発見はつきることなく、話が続いていきます。



お互い、職業も（先生が多いが）職場も異なる人間同士が、自然が好きだという共通点をもって集う。自然を知りたい、守っていきたい、という意識をもって話し合い、視野を広げていく。日々忙しい言いながらも、出席して1日終えて帰ると、よかったですア、また来たいな、と思うのは私だけではないでしょう。

共に学び、育ち合う仲間といえば、カッコ良すぎるでしょう。会の

運営も年々しっかりととしてきている中、会員の要求も、自然一般から何か焦点をしづぼって深めたら、というように変ってきてています。

ところで、知多半島の自然には、海が欠かせません。春先の波の荒い風の冷たい浜が、おだやかになると、アメフラシの産卵がいっせいに始めて、海のラーメン（ウミソーメン）だらけ。太陽がギラギラと照りつけるようになると、タイドプールの中はぐっとぎやかになって、カイメンやイソギンチャク、ナマコやホヤ、そして子どもたちのアイドル、カニ、ヤドカリの天下になります。時には、ウミケムシなどのさわると痛い「敵」に出会うこともあります。秋風がそよぐようになると、海草たちのちょっとかわった変化が見られます。

海浜の植物たちも、四季色々な花を見せてくれますが、彼らが葉を落とし、ロゼッタに広がると、海もふきすさぶ冬の景色になります。

富具崎の観察会も去年に續いて2回行い、富具崎で見ることのできる動植物、そして回りの環境も、ゆとりをもってながめることができます。グループごとの班付き指導員はもちろんのこと、ポイントで疑問をなげかける、なぞかけ指導員、そしてビーチランドからの専門指導員。それらのバックアップの中で、子どもたちも自由に口をひらき、五感を十分にはたらかせ、かつ、つかまえてはならないのはなぜか、ということも理解し、海辺の1日を楽しんでいってくれたようで、指導員一同ホッと胸をなでおろしたものでした。

このように、指導員同士目下観察会をメインにおく活動になっているわけですが、指導員内から出てきた要求も満たしていかなければなりません。

過日は、知多半島の地質というテーマで、特に半島先端の地質の勉強をしました。十数名の参加の中、プリント片手に、半島では珍らしい領家变成岩や、サメの歯の化石の出たという地層、地上へ垂直にのびる砂岩柱、カニの手が出る地層を見、ハンマーでたたいてみたり、昼食は、断層をながめながらおにぎりにあります。そしてしゅう曲、知多半島の成り立ちや、全体的な地質構造、身近な岩石の話から火山の話と難易色々の言葉がとび交う中、大地の偉大さ、地球の歴史の大きさに、すごいと声をあげると共に、人間の生命、歴史の短かさと、今日の自然界

を無視した開発のすさまじさを、再び感じないわけにはいきませんでした。

知多支部メンバー、それぞれ個性の強い人ばかりです。道を歩くにも待ち合わせをするにも、道端を見、空を見上げ、アレ？今日は……、こんなところに……と、見つめる目、感動する「芽」をもっています。そして、この感動の輪をいかにして広げていこうか、頭を悩ませているところです。年々進歩の知多支部です。

(竹内秀代)

### [なかまたち……3]

#### カマキリのなかま

カマキリは、殘忍な虫の代表のように思われているが、他の肉食性の昆虫と比べて特にそうともいえまい。形、動作からくるのか、

何でも食べるからか、共食いするからだろうか。冬にはよく卵塊を見ることがある。オジガフグリ（老爺が？）と呼ばれるそう。歳時記には、挾み太郎とかいほむしりとも出ていた。



コカマキリ

石の下、板など  
(草地)

オジガフグリ（老爺が？）と呼ばれるそう。歳時記には、挾み太郎とかいほむしりとも出ていた。

(成虫を)



オオカマキリ

茎

(草地・  
やぶ)



いろいろなものにつく  
(主に林)

ヒメカマキリ



ハラビロカマキリ

枝や幹

(やぶ・林)



はがれた樹皮の下  
(森林)

ヒナカマキリ

(佐藤国彦)

~~~~~{ 会員広場 }~~~~~

緑の国勢調査に参加して

竹部公哉（美浜町）

私たちの会「日本福祉大学緑の国勢調査に協力する会・雁行会」では調査に参加することにより、調査結果もさることながら、多くの成果を得ることができました。

私は、かねがね自然観察指導員の一員として、多くの人々に自然を知るたのしみを伝え、自然のすばらしさを知って欲しいと思っていました。特に大学が美浜町という新しい環境に移ったことで、この大学がいかにこの地域に根をおろした開かれた大学になるかを考える上で、身近な足元の自然を観察することにより、美浜町の自然を理解することも大切な要因であると考えたわけです。身の回りの自然を観察し、新たな発見をしたり感動することから、自然のすばらしさを知り、美浜町の自然や自然保護について共に考えていける仲間をふやしたいと考えていたのです。

その時、この緑の国勢調査を知り、調査は1年限りであるが、この機会に少しでも自然のことを知ってもらおうと、大学内外、特に我大学の学生を中心に呼びかけ、雁行会を結成したのです。メンバーは様々な人がいて、自然にもともと興味のあった人やまるきりなかった人までいました。

雁行会では、個人で調査してもらいましたが、単に調査するだけではなく、大学周辺の自然やその移りかろりをみんなで観察する機会などもつくりました。その結果や美浜町を中心とした知多半島の自然の情報などを伝え、会員同士のコミュニケーションをはかる機関紙を発行しました。大学祭で、メンバー外の人たちにも、私たちの活動を知ってもらい、自然に目を向けてもらおうと企画をたてたりしました。

メンバー全員が観察会に出てきて共に観察する機会はもてませんでしたが、少しづつでも自然に目を向ける学生が増えたことは確かでした。潜在的に自然に興味を持っていた人たちにもその機会を与えることもできました。何よりも、知多半島の自然の特質を知るにつれ、自然を見直したり、感激したりし、ささいな出来事から多くのことを学びました。

調査はこれで終了し。雁行会も実質的に解散となります。今後のこととは検討中ですが、少しでも仲間を増やせたことを評価し、小さな動きでも続けたいと思っています。仲間づくりのむつかしさ、仲間の大切さを教えてくれた調査でもありました。

「めんどうくさい」について

佐藤国彦（日進町）

私は本来かなりの不精者で、学生の頃には「灰皿！」「お茶！」などと平気で家人を使っていました。立って10m足らずを歩いて、必要な物をとってくるのがつい「めんどうくさかった」のです。しかし、考えてみれば、自分が何もしていないでいて人を使うのは不そんなことです。

少しばかり動いても疲れたり、疲れがひどくなるはずはなく、むしろ疲れた時はたっぷり寝て、後は動き回る方が健康的です。疲れは、消極的な生活態度によりたまるものといつてもよいかもしれません。

人間はもともと不精なものとしてつくられたせいか、何かにつけて、「めんどうくさい」という理由で行なわずにすることなども多いようです。しかし、「めんどうくさい」ために止めて、余った時間はゴロ寝位ですんでしまうことが多いでしょう。

ナショナルトラストや不幸な出来事に対して、何がしかの寄付をしてもいいと思っても、つい手続きが「めんどうくさい」ため見送ってしまうことなどもあるでしょう。せっかくの気持も、行動に現われなければ無いのと同じです。「めんどうくさい」のが高じて必要なことまでしなくなると問題です。社会が少し位悪くなっても、自分のせいではないのだし、自分／人位が何かしたって、どうせ大したことはできないのだと考える人もいます。社会は、多くの人がそれを良くしたいと願い、かつそのために少しでも行動する人があって、始めて進歩するもので、皆が手をこまねいているならば、社会は確実に悪くなっています。

現代社会を危うくするのは、「めんどうくさいという心」と「利己性」であるとさえ思います。肉体と精神は共に使わなければ退化するものです。「めんどうくさい」と言わずに、限りある人生を、少しでも多く何かすることに使いたいものと考えます。

[行事報告]

59.12.8 役員会 (於県産業貿易館)

- ・規約の全面改訂について検討。(準会員制度等について意見交換)
- ・経理規程の改訂について検討。(旅費の支払、支部の経費への支出方法等改訂)
- ・60年度事業計画について検討。(新規事業として、自然観察指導員講習会の実施、県委託の自然観察の手引の作成)
- ・役員の増員、総会の運営について検討。
- ・次回役員会……60.2.16 (於産業貿易館)

60.1.26 企画運営委員会 (於県中小企業センター)

- ・59年度の自然観察会の結果について検討。
(全体に参加者数が少なかった。広報に力を入れる必要がある。事故対策はもう少し確実に検討しておくべき。ころぶだけで骨を折る子もいる時代だから。観察会の運営の問題点は、現地地調査をうまく行うことでふせげるはず。特に初心者を考慮した現地調査をする必要がある。指導方法にも工夫すべき点がある。等) ……60年度の方針について各支部に通知する。

編集委員大募集!!



集まれヤングな
諸君

明日の協議会ニュースの

限りない前進のために!

(連絡先) 渡並喜一郎
052-774-4680

〔条件〕

- 1 広い視野の持ち主
- 2 頭脳柔軟
- 3 野次馬根性

(と思っている方も可)

〔待遇〕

- 1 無報酬
- 2 冷偶

(ただし、楽しくやって
いきます)

(2月末迄)

※機関紙をより一層充実したものとするため、皆様の協力を!

[行事案内]

| 期日 | 主 催 | 内 容 | 備 考 |
|-------------|-------|---------------------------|---------------------|
| 60年
2.24 | 協議会 | 総会・研修会 13:20
「ため池の自然」 | 中小企業センター |
| 3. 8 | 知多支部 | 室内懇談会 18:00
(宅地造成地と自然) | 阿久比町公民館 |
| 3.10 | 協議会 | 編集委員会 13:30 | 中小企業センター |
| 3.13 | 名古屋支部 | 例 会 18:30 | 芸術創造センター
(新栄町) |
| 3.17 | 〃 | 自然観察会(一般募集)
八事興正寺 | 五重塔前
9:00~12:00 |
| 3.21 | 協議会 | セミ分布調査委員会 | 中小企業センター
13:30 |
| 3.24 | 〃 | 自然保護を考える会
(まとめ……その1) | 中小企業センター
13:30 |
| 3.24 | 尾張支部 | 月例観察会
(犬山市善師野) | 名鉄犬山遊園駅
8:30 |
| 3.31 | 知多支部 | 春の野草観察会
(与五八池周辺) | 東海市青少年センター
9:30 |
| 4. 7 | 協議会 | 自然観察の手引
作成委員会 | 中小企業センター
13:30 |
| 4. 7 | 西三河支部 | 飯盛山(足助町) 観察会
10:00 | 足助高校(足助)
正門前 |
| 4.10 | 名古屋支部 | 例 会 18:30 | (場所未定) |
| 4.12 | 知多支部 | 室内懇談会 18:00 | 阿久比町公民館 |
| 4.20 | 〃 | 自然観察会(一般募集)
与五八池 | 東海市青少年センター
14:00 |
| 4.28 | 尾張支部 | 月例観察会(善師野) | 名鉄犬山遊園駅
8:30 |

※他支部の行事も参加できます。

[後記] 今年の春は早めに来そうです。各行事への参加を期待しています。

事務局: 愛知県農地林務部
自然保護課保全担当